
届けたいこと

闇夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

届けたいこと

【Nコード】

N1133B

【作者名】

闇夜

【あらすじ】

卒業の季節、届けたい気持ちがある。しかし届かないそんな少女の切ない話

届かない気持ち
すれ違うココロ

届かない、届けたいのに・・・

人は誰かを思い、思われている

しかしそれは届かない

途中でぶつりと切れてしまう。

それは勇気がないから？

それは臆病だから？

高校二年生の春

私は風を感じて桜並木の中に立っていた。

季節はとづくに変わり暖かい日差しが彼女に照りつける。

彼女はある人を待っていた。

別に呼んだわけではない

ただ彼がここを通ることを知っていたから。

彼女が待っている彼は高校三年でもう進学も決まり今日卒業を無事に終えた。

彼とはメールなどのやり取りをしたり、遊んだこともある。

しかし別に付き合ったりなどはしていない。

いや、したいけどできない。

自分には勇気がないから

彼とは結構長い付き合いだ。

ずっと前から好きだった。

彼とはよく目が合う、それで好きになってしまった。

おそらく彼も私のことが好きなのだろう。

だから彼が行った難しい高校にも頑張って入った。

それは並大抵の努力じゃなかった。

ただ彼に会いたいと、そう思う一心でひたすら勉強した。
でももうすぐ彼は卒業してしまう。

もう会えなくなってしまう。

そんなのは嫌だった。

だから今こうしてここにいます。

思いを届けようとしている。

高ぶる思いを抑えて彼が来るのを待つ。

ただ無駄に時が流れていく。

やがて人影が見える。

おそらくそれは彼だろう。

どんどんと近づいてくる、それに比例し鼓動が高鳴る。

彼は私に気づき目を見つめる。

しかし歩みを止めることなく進んでいく。

私はドクドクと高鳴る心臓の音をあさえて

私は今の気持ちを伝えようと声をかけようとする

「あっ、……あの……」

しかし声は虫が鳴くより小さく彼に聞こえることはなかった。

緊張して他には何もいえない。

そのまま彼は過ぎていってしまった。

私はただその後ろ姿をみて後悔にくれることしかできなかった。

届かない気持ち

届けたい気持ち

しかしもう届けることはできない

彼はそのまま日の沈む方へと消えていった。

もう届くことはない……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1133b/>

届けたいこと

2010年12月28日19時52分発行